時事新報

釋返局認可

明治十八年一月廿三日　金曜日

第八百七十三號

日曜日休刊

社告

○時事新報社員の御購讀被成下候ニハ新報代價並ニ郵便税共必ず前金ヲ以テ御申入被成下度候又前金相切レ候ハハ其日限リ新報ハ遠慮相見合セ候

○郵便代價並ニ郵便税トレテ御送附相成候金員當方ニテ正ニ落手仕候節其都度新聞ヲ以テ御通知ハ不申上其代リニ毎日御遠慮申上候新報ハ帶封表面御宛名ノ上ニ（何月何日）ト記入仕置候間御覽可被成下候是ハ此日マデノ新報代價並ニ郵便税トモ御拂濟相成居ルニ付此日マデハ新報遠慮仕候ト申ス事ニ候

○郵便為替又ハ銀行為替等ヲハテ時事新報代價御拂入レ被成下候節當方ノ名宛ハ（時事新報社）ト致レ郵便為替ナレバ（東京麹町本局）ニテ受取ルベキ様御取組被成下度候

○御住所ノ御組合ニテ郵便為替又ハ銀行為替等御取組被成下候節御不便ノ御方ニ限リ時事新報代價並ニ郵便税共一錢又ハ二錢ノ郵便切手ニテ御拂入レ被成下候ハヾ苦シカラズ候

○時事新報配達ノ諸君ニテ住所御移轉等ノタメ新報配達先キ御取替（被成度節ハ新舊兩方ノ所番ヲ併テ御通知被成下度候

時事新報定價

（日曜日ヲカリ休刊）

一枚金三錢○一箇月前金六十五錢○三箇月前金一圓八十錢○六箇月前金三圓四十錢○一箇年前金六圓五十錢○東京十五區内並ニ横濱區内ニ限リ配達料賃○前記東京横濱ヲ除クノ外日本國内並ニ海外郵便條約國（臺灣諸國等）（御送ノ郵便税ハ一箇月金廿六錢一箇年金三圓十二錢ノ割ヲ以テ前金ニテ申請候事

前金拂賃告料定則

一行ヨリ十行迄一行ニ付一日分金八錢、十一行ヨリ三十行迄一行ニ付一日分金七錢、三十一行ヨリ五十行迄一行ニ付一日分金六錢五厘、五十一行以上何行ニテモ一行ニ付一日分金六錢、但シ六日間以上掲載ノ分ハ定則ニ割引十五日間以上同盟同一割五歩引、三十日間以上同断、同二割引

公報

東京圖書館

○大藏省告示第十二號

明治十七年（五月）第十八號布告兌換銀行券ノ內今般十圓券製造出來ニ付見本各府縣ニ下ゲ渡置候條紙質雜キ込ミ等ヲ注意ヲ要シ置候樣府縣ニ致度

但府縣ニ於テハ六箇月間人民ヘ差示シ候上當省ヘ返納可致事

右告示候事

明治十八年一月二十二日　大藏卿伯爵松方正義

時事報報

京城駐在日支ノ兵ハ如何ス可キヤ

今度朝鮮ノ變亂ニ就テハ北京ノ事情樣々ニシテ十二月四日ヨリ六日マデ事ノ最中ト爲シ四日以前ニ之ヲ聽シタル內情モアラン六日以後ニ日支兩三國ノ利害ニ影響スル可キ事柄モアランナレバ局ニ一撃ニ害ヲ被リタルモノハ日本國ナルガ故ニ日本國ヨリ特ニ全權大使ヲ派遣シ日本ト朝鮮トノ間ニ最早一點ノ苦情アルコトナク平穏至極ノ當ニ復シタルハ我輩ノ最モ滿足欣喜スル所ニシテ除ニ井上大使ガ韓廷ヲ責ルコト時ナラズ嘗其報告ヲ俟テ一足ル可キヲ限リ官費ノミヲ要求シタルハ偏ニ故ノ亂黨鎮壓共ヲ懲ラシムルノ處分ニシテ韓廷ニ對シテハ苦々シキ談判ノ中ニモ自カラ我日本政府ノ好意ヲ表スル足ルモノナレバ我輩ニ於テ毫モ關然スル所ナシトノ旨ハ過般ノ我報上ニモ略其大意ヲ陳ベタリキ

彼日韓ノ關係ハ斯クモ日出度キ結束ニ治マリタレハ元來今度ノ變亂十二月四日ヲ發端トシテ我竹添公使ハ前後何モ知ル所ナク唯朝鮮ノ國王陛下ガ急優ナリ來リテ我レヲ請レキノ勢使ヲ聽セラレタルニ付キ疑耳ニ水トノ申シナガラ一國王ノ詔ハ固ヨリ重クシテ其勅使サ（尋常一樣ノ身柄ナラズ兼テ貴顯レナキ錦陵尉ノ宮ノコナレバ取ルモノモ取リ敢ヘズ早々兵備ヲ整ヘテ御所ニ赴キタルマデノ事ニシテ參內ノ後モ國王陛下ニ於テハ頻リニ公使ニ向テ其赴擊ノ迅速ナルヲ嘉セラレタリトノコナレバ其マヽニテ三五日モ過キ果シテ變亂ノ原因モ分リ夫レ〳〵處分モ相濟ミタル上ハ公使ハ公使館ニ歸リ朝鮮政府ハ依然タル政府ニテアル可キハ更ニ疑モナキ筈ナルニ時ノ不幸ニシテ如何ナル譯ケニヤ在京城支那ノ將官袁世凱、吳兆有、張光前ナル者ガ兵隊ヲ引率シテ大闕ニ向ヒ來リ彼レヨリ砲撃シテ一時戰爭ノ奚ト爲リ夫レヨリ城中ノ支那商人等モ各兇器ヲ持テ立廻ハリ荒レ廻ハリ之ガタメニ貴本ノ人民等ハ恰モ不意ヲ襲ハレテ死傷損害甚タ少カラズ是レハ六日ヨリ七日ニ渡ケテノコナレハ尚其後ニ至リテモ支那人ノ殺氣ハ容易ニ收マラズ南陽ニテモ吉松某遭難ノ事アリ十二月廿八日竹添公使ガ再ビ入京ノ後歲末歲首ノ頃ニ於テモ支那兵ガ敢テ我公使ヲ犯スガ如キ擧動コソナケレハ都テ樣子柄ハ甚ク穩ナラザルモノ多シトノコナリ依テ窺ニ案ズルニ我政府ハ支那政府ニ向テ素ヨリ平和ヲ好ムコナラン我國民トテ同樣ニシテ和戰ノ二字ヲ並ベテ示スハ顚乱ヨリモ和靜ヲ喜ブコ當然ナレハ今度ノ一條ニ付キ我レハ支那ニ求ル所ナシトテ全ク無言ナル譯ケニモ參ルマジト申スハ現在我日本人ノ身ニ害ヲ被リタル事實アルガ故ニ其損害ダケハ何トカ償ヲ要メテ俗ニ所謂明カリノ立ツヤウニスルコハ獨立國ノ体面ニ於テ飲ク可ラザルノ樂擧ナレバナリ扨支那ニ向テイヽ〳〵加害被害ノ押問答ニ至テハ仮令ヒ明白ナル事實ニテモ勝ツモ好テ負ルヲ嫌フハ人生ノ常ニシテ況シテ永遠無窮一國ノ榮辱ニ關スル所ノモノナレバ双方共ニ霞城ノ有無ヲ論ズルコトナラン即チ其當局者ノ任ズル所ニシテ我輩ハ固ヨリ我外交官ヲ信ジ必ズ其談判ニ不都合ナキノヨナラズ剛氣活潑十二分ノ滿足ヲ取リ我人民ノ盛外ニ出デヽ拍手快ト呼バヽムルノ日アル可ケレバ此邊ニ就テハ民間ノ吾々ドモハ衆心シテ唯政府ノ着手ヲ待ツノヨノコナレハ愛ニ一ツノ不衆心ハ彼ノ京城駐在支那兵ノ事ナリ元來朝鮮ノ首府ニ支那兵ノ在ルハ甚ダ不都合ナル譯ケニテ我輩ハ此事ニ就キ兼テ所見モアレハ是レハ他日ノ論ニ讓リ兎ニ角ニ事ノ實際ニ於テ掌ニ相觀ル其有樣ハ無事平靜ノ時ニテモ高々安心ハ申シ難キ其上ニ彼ノ變乱以來ハ何トナク双方共ニ戰氣ヲ立テ居ルコトナレバ如何ニモシテ支那兵ヲ朝鮮地方ヨリ引揚ゲシムルノ工風ナカル可ラズ國ノ榮辱ナド云フ論ハ第二着ノコトスルモ現在目下ニ如何ナル變ヲ再發ス可キヤモ計ラレズ況シテ北支那ノ人ハ是レマデ關ダル次第ナレバ是非トモ至急ニ其引拂ヒヲ促シ度キコトナリ夫レニ付又我輩ノ慮ル所ハ若シモ我レヨリ支那ヘ其兵ヲ引揚ゲヨト申入レタラバ先方ニテハ委細承知但シ支那兵ガ引クカラニハ日本ノ兵モ共ニ引ク可シト答ルコトモアラン歟ト之ヲ恐ル、ナリ成ル程ダマ物ノ形ノミヲ見テ事ノ精神ヲ問ハザルトキハ一方ノ兵ガ引クユエニ他ノ一方ノ兵モ引クトハ一寸道理ノヤウニ見ユレハ本來日本兵ノ朝鮮ニ駐在スルハ明治十五年大院君ノ乱ニ始マリシコトニシテ我日本政府ヨリ朝鮮ノ國情ヲ視察シ我國人保護ノタメニ實心ナリト認ルトキハ即日ニテモ之ヲ引揚ゲ尙ホ安心ナリト思ヘバ幾箇月幾箇年モ駐在ヲ解カズ其取捨ハ全ク我國ノ主權ニ屬スルモノニシテ支那兵ニハ毫モ關係スル所アルコトナシ即チ日本兵ガ京城ニ駐在スル事ノ精神ナリ然ルニ今支那ノ兵ト日本ノ兵ト其物ノ形ノ同樣ナルヲ見テ進退ヲ一樣ニセントハ請取リ難キ談ナラズヤ加之今ノ朝鮮政府ノ全權ハ陰然ノ際支那人ノ手ニ在リト云フモ敢テ人ノ疑ハザルホドノ內情ナレバ好シヤ支那ノ兵ガ京城ヲ去ルモ日本ノ方ニ自カラ保護スルノ用意ナクンバ治亂共ニ甚タ不用心ニシテ如何ナル不都合モ計ル可ラズ如何ナル災難モ計ル可ラザレバ當分ノ間、朝鮮ノ國情ノ平治スルマデ我保護兵ヲ置クハ止ムヲ得ザルノ要用ナルヲ雖レ人ノ心ニ於テモ然リト肯スル所ナラン兎ニ角ニ今日焦眉ノ急ハ一度ビ手懲シタル支那兵ニ先ヅ退去ヲ促スノ一事ナリト信スルナリ

雜報

○御寫眞下附　聖上皇后宮の御寫眞を在布哇國我が領事館へ備附として一昨廿一日下附せられたり

○山階宮　西京に住はせらるゝ山階宮ゑは昨廿二日午後二時三十分横濱發の汽車にて上京せらるゝに付小松北白川、山梨の三宮其他貴顯れ方々は横濱迄出迎はれたり

○御歌會始め（本紙八百七十號の續）

陸軍中佐二品勳一等　貞愛親王

ゐら玉のとしもたちえの梅の花

雪のうちよりさきそめゑけり

二品貞愛親王妃　利子

ふりつもる雪にうちにぬめつらしく

さきそめにけりうめのはつ花

太政大臣從一位大勳位公爵臣嘉彦朝臣實美

さきかけて咲たる梅の花の香い

雪のうちにもゐくれさりけり

參議從三位勳一等伯爵臣澤朝臣高行（佐々木）

ひえとりのゐさる垣ねに雪れうちよ

ひと枝さけりうめのはつ花

元老院議官

議式部長官從三位勳三等侯爵臣藤原朝臣直大（鍋島）

色かへぬ松とものかはふる雪の

うちよりさきたりうめのはつ花

點者　參事院議官從四位勳二等臣源朝臣美靜（福羽）

うめの花こゝろみにつれていそくとも

雪ふりてゆ空に雪いふるらし

宮內省出仕兼華族局長官　正二位勳二等侯爵臣源朝臣長勳（德野）

ふりつもる雪のうち

宮內大輔正四位

うきくゞしふりしき

宮內少輔

白雪のふるえゐから

題者點者

雪そんとゐけさるま

講書

ふりつもる雪ゐもし

講師　從二

ふりつもる雪のうち

貴者侍從正四位勳

ふりつもる雪のうち

○詠進の和歌　本年去る十日迄宮內省へは七千八百八十六首ナヨルナル卿は先日ヨめ書腦三日彼阿曾社ンド港を出發せしが卿が乘船せるを合せとテ

○チヨルナル卿　英

○芳川內務少輔　同付けられ本日出發す

○フオセット氏の行ヴン氏ハ近頃故フオ夫人の勸めに依リフ同氏が生前の言行を請ひ石編纂の材料とさる由

○紅葉溫泉行　島參海溫泉へ入浴の著ア

○駐外英國公使の歸紫英國公使より印度公使あるサー・エドワせらる國駐紮公使ー・ロバート・モーリ

○臨場　今度千葉縣の卒業証書授與式を特少輔、長與衛生局ありと

○ヒヨードン氏　太の程制度取調局御用の

○ビューレン氏　横ン氏は先頃香港へ赴